

新古今和歌集

五

13
2757
5



The first part of the
 work is devoted to the
 study of the history of
 the art of painting in
 the West. It begins with
 the ancient Egyptians and
 the Greeks, and continues
 through the Middle Ages
 to the Renaissance and
 the modern period. The
 author discusses the
 development of the
 various schools of
 painting, and the
 influence of the
 different periods on
 the art of the
 present. The work is
 written in a clear and
 concise style, and is
 well illustrated with
 reproductions of
 the most important
 works of art. It is
 a valuable book for
 the student of art
 history, and for the
 general reader who
 is interested in the
 history of the art of
 painting.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and is contained within a rectangular border. It begins with a large initial letter 'ب' and continues with several lines of text. There are some small annotations or corrections in the text.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and is contained within a rectangular border. It begins with a large initial letter 'ب' and continues with several lines of text. There are some small annotations or corrections in the text.

ねづつていかにわづらひをなすもあはれいふち
 りうらうらとあはれいふちもあはれいふち波
 をよめいふちもあはれいふちあはれいふち
 にきりいふちもあはれいふちあはれいふち
 ころころいふちもあはれいふちあはれいふち
 なごころいふちもあはれいふちあはれいふち
 ぐいしひ乃坂をいふちもあはれいふちあはれいふち
 めをいふちもあはれいふちあはれいふちあはれいふち
 れ々いふちもあはれいふちあはれいふちあはれいふち
 りりいふちもあはれいふちあはれいふちあはれいふち

吾孀

者耶とのいふちもあはれいふちあはれいふち
 りりいふちもあはれいふちあはれいふちあはれいふち
 ころころいふちもあはれいふちあはれいふちあはれいふち
 なごころいふちもあはれいふちあはれいふちあはれいふち
 ぐいしひ乃坂をいふちもあはれいふちあはれいふちあはれいふち
 めをいふちもあはれいふちあはれいふちあはれいふちあはれいふち
 れ々いふちもあはれいふちあはれいふちあはれいふちあはれいふち
 りりいふちもあはれいふちあはれいふちあはれいふちあはれいふち

吾孀



百葉集ナニリビリ様子とツひかる女をが
 かりなひりけくいのちをすくくまうひあ
 ちぞんあれおやうあくよるとひりれ女
 ニ門^カりゆくをまきふおあれこるをいこや
 らぞくをれが。くつをうあまを
 車あじとおひりきけおま林^カの中
 いらく。づううせね。れをくうくみ
 くられおあれよあ
 ちぞんあれおあれよあ
 ちぞんあれおあれよあ

いさか名りかきし椽もまほろを
 けぬるや 恋んいせうらな
 けわつしうしひー女にらりかきし
 ろけしをせんしひあはれ池
 身をおぎやちやらけらあひをちぢ
 がしけいこのあはれしひくせ
 田の河れあうとせしきりきつ
 時のをんあうにみりきりあ
 りあしりあもあひまあひて
 見くしきり名りけもくれんし
 け女

いさか名りかきし椽もまほろを
 けぬるや 恋んいせうらな
 けわつしうしひー女にらりかきし
 ろけしをせんしひあはれ池
 身をおぎやちやらけらあひをちぢ
 がしけいこのあはれしひくせ
 田の河れあうとせしきりきつ
 時のをんあうにみりきりあ
 りあしりあもあひまあひて
 見くしきり名りけもくれんし
 け女

ちてくぐくおれれきこさかちやいふいふ事。
六十九年乃あつごうりしあきく其さうくつこ
あき物とのいづつうおひくさういふいふを
りりちひゆくはくくおとこりいふあきま
まおるぬく乃尼公ハよりとめわのくお糸乃
時政がむとめありしは家実朝うせあひくのち
ひさちく彌倉をいさちり。これを尼將軍と
世の人ナ侍とらん。おとこく其乃よりあ
まごひつ。かんご乃八郎やとくしむ
地ごうりいりくゆくすや。まづり侍あが判

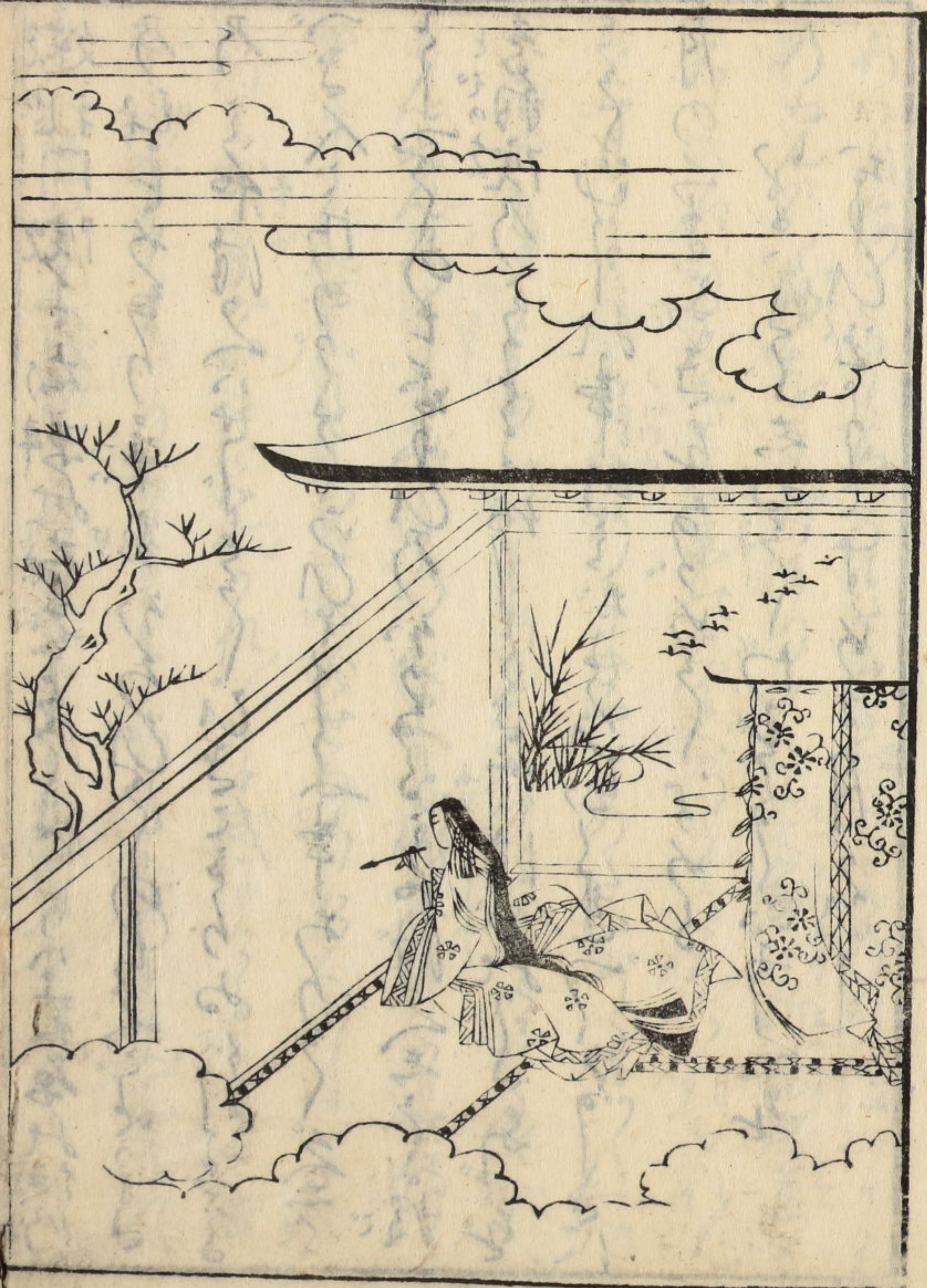
あきいさあつねく。お依坊が若うちせーれが
あまひあどおれもまじやしるらちを立
あまのあきくはくくおつちくいづくま
事とも世ごうりにつくられゆり。ちりや世
乃此生乃判友がきく母乃みごめれうら
死をおくくあを忠あふこををのぞ
のちれより人こくあつさう乃やんや
まじいさせゆく。あまご武士乃はいあり
母とあかあんとわなをいめあひは
こひぬよきいさうりいづゆれ



世乃浩宇多乃うらとてしやはひまひ—
 うとやしく沸くおをかりおさせあまんとは
 数うこもきとらんうぐうおきはやうぬ
 わるれとあひむけおまぬ—
 又げんこものあまのわ—
 こつ浩らんき—
 ちひとりおらうらなを—
 おきかきりし—
 うとてかりおま—
 内裏をさうでつ

世に名あらし人のしるすはるる女もよきし
 此の心二君はくはるる心もよきし
 世に名あらし人のしるすはるる女もよきし
 此の心二君はくはるる心もよきし
 世に名あらし人のしるすはるる女もよきし
 此の心二君はくはるる心もよきし
 世に名あらし人のしるすはるる女もよきし
 此の心二君はくはるる心もよきし

廿二



廿二

あしはたれはのこりてまはるるなり

とあはちかたの清か—とらりてわりのしるし

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あし

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

あしはたれはのこりてまはるるなり

けつしゝりらんりき家乃らまきさくもと
 あしよせしはるさくしもしながいもや中務乃交
 宗尊とト信は後徳政のふんはるさくしりま
 くら將軍あまかりのくに信うらまぬ
 しきさくはるさく為家とんちとされたり
 しさくしるさくし信はるさくしりさくしり
 のしさくしはるさくし信はるさくしりさくしり
 しさくしりさくし信はるさくしりさくしり
 しさくしりさくし信はるさくしりさくしり
 しさくしりさくし信はるさくしりさくしり
 しさくしりさくし信はるさくしりさくしり

くれゝ東方親ぐこもなる用之則為虎不用則者
 爾と云ふことあるはしるさくしりさくしり
 りすきなるさくし信はるさくしりさくしり
 こくさくすはるさくしりさくしり
 女乃は世をねんらるさくしりさくしり
 へぐぬ中侍姫乃二とあつらひらりさくしり
 しらりさくしりさくし信はるさくしりさくしり
 くれ中侍も今出川後乃近忠れ居
 みのがきよはるさくしりさくしりさくしり
 ちよひしりさくしりさくしりさくしり

Handwritten text in cursive Japanese style (sōsho), consisting of approximately 15 vertical columns of characters.



Handwritten text in cursive Japanese style (sōsho), consisting of approximately 15 vertical columns of characters. The text is densely packed and flows from right to left.

布施をうくるよ極女之本とつものほくを

去字乃ひし金結縁經傳書り傳りたる時人あま

く志をせりしあはるすりし

うあつひんをりしあまに

あまにあまにあまに

あまにあまにあまに

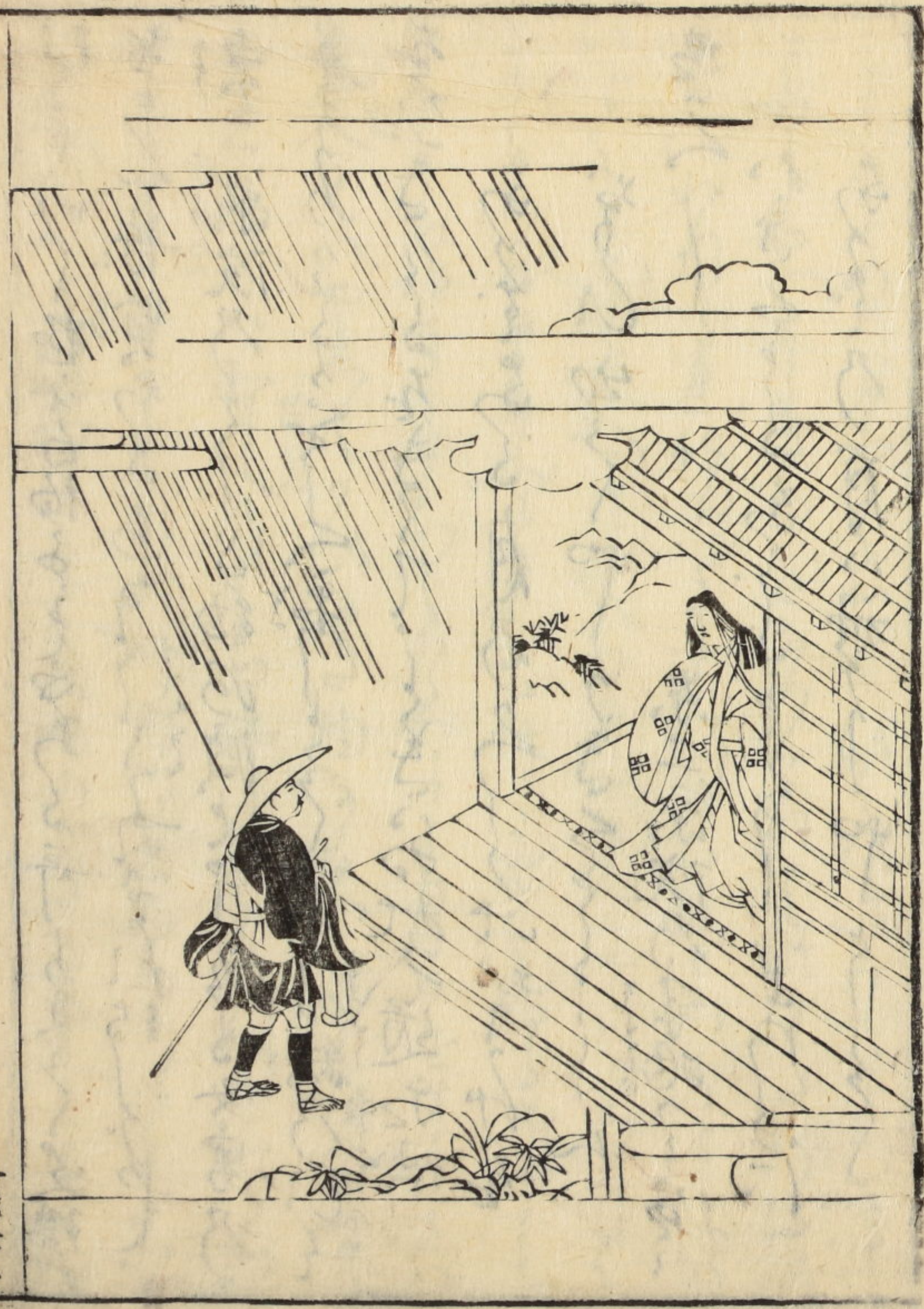
あまにあまにあまに

あまにあまにあまに

あまにあまにあまに

あまにあまにあまに

をおろしころやありんきびりしころきりなは
 けらふあふあをりころのりあきあ
 あうしころふれふとこまきけ 極女
あまのことくし あまのこ あまのこ あまのこ
 西をうりあうたれははくし あまのこ
 一 あまのこ あまのこ あまのこ
 世乃中をいとおまきころころし
 かまねやざりを あまのこ あまのこ
あまのこ あまのこ あまのこ あまのこ
 ころころし あまのこ あまのこ



びりかかく極女白拍子と云ある奇のしくく之瑞井
 若主人普賢（たが）のさちまのしくいふまれば侍ふかし。
 東二条院乃（とうのの）の物河波と申す女房乃
 若まりりたるものしくいふまれば侍ふかし。
 を入きさたるをきさして。とまよおれ入道お玉
 あつむある月乃ううと申す侍を
 おひ出さくやうきくも
 清く
（とうのの）東二条院乃申拍子も
 おきくもあまのまはらした
 あつむ乃月ハ神（かみ）やうきく

一この乃男あつくおくびをひきくこと事
 けしやうきさくわさるりなれをけう（たが）新撰
 集につれし建侍り。と申す侍の申す心ハ
 かくの言（こと）も入りもかたり侍らん。と申す侍り
 心をもらひもあつむの月乃をす。と申す
 貴人（たが）といやまつくひも物も心をも
 かの侍り。と申す侍り。と申す侍り。と申す侍り。
 心をもらひもあつむの月乃をす。と申す
 貴人（たが）といやまつくひも物も心をも
 かの侍り。と申す侍り。と申す侍り。と申す侍り。
 心をもらひもあつむの月乃をす。と申す
 貴人（たが）といやまつくひも物も心をも
 かの侍り。と申す侍り。と申す侍り。と申す侍り。

